「学校の検証改善サイクルの確立を支援する取組」

香川県教育委員会

はじめに

香川県教育委員会では、学力向上モデル校連絡協議会や全県的な研修会等を核として、全国学力・学習状況調査等の結果から、全県的な課題を示し、研修会、研究指定校、指導者派遣等の事業を通して、県全体でアクションプランに取り組む体制をつくるとともに、市町教育委員会や学校が課題の解決に向けて取り組むことで、それぞれが検証改善サイクルを確立することをねらいとして事業を行った。

Ⅰ．香川県教育委員会における取組

１．事業内容について

（１）事業概要

◆調査の実施

・全国学力・学習状況調査の採点における判断基準の作成・配布（H22.4.23）

希望利用校において、採点の誤差を小さくするために採点時の判断基準を作成した。

・全国学力・学習状況調査調査結果入力シートの作成・配布（H22.4.23）

希望利用校が調査結果を集計、分析するために、データを入力するシートを配布した。

◆調査結果の分析

・全国学力・学習状況調査の結果報告（H22.7.30）

国の公表に伴い、県の結果から覗える傾向をまとめ公表することで、市町教育委員会や学校が比較し、分析が行えるようにした。

・全国学力・学習状況調査調査結果分析支援ソフトの配布（H22.7.5）

希望利用校が、正答、誤答、無解答を入力することで分析できるように、ソフトを開発した。また、抽出利用校が、国から提供されるデータを集計した後、分析できるように、ソフトを改訂した。

・全国学力・学習状況調査個人票作成ソフトの配布（H22.7.5）

希望利用校が、抽出対象校と同じ個人票を作成することができるソフトを開発した。

・全国学力・学習状況調査第１回調査結果分析検証会議（H22.9.15）

県教育委員会で分析した調査結果について、香川大学教員、市町教育委員会教育長、小学校長、中学校長で構成する会議で検証を行った。

・研修会での普及(H22.8.4～5)

県内小・中学校の３分の１の教員が参加する研修会を開催し、調査調査結果から覗える課題を示し、今後の取組の方向付けとした。

◆調査結果の活用

・全国学力・学習状況調査報告書の配布（H22.10.28　A4 版 98 ページ 1,300 部）

本年度の結果、経年変化、平成 19 年度小学校 6 年生と平成 22 年度中学校 3 年生の比較等を通して明らかになった課題を示し、市町教育委員会や学校の分析検証の参考となるようにした。

・研修会における活用事例の交流

県内小・中学校から１名程度の教員が参加する研修会を開催し、調査結果を活用した取組の事例を報告し合うことで、調査結果の分析や活用の仕方についての情報交換を行う場とした。(H22.8.20)

・全国学力・学習状況調査第２回調査結果分析検証会議（H23.2.15）

平成 22 年度の調査結果の活用について見直し、今後の取組の方向性を示した。学校改善支援チームの派遣、教員の指導力向上について次年度施策の検討とした。

◆調査研究活用への支援

・学校改善支援チームの派遣

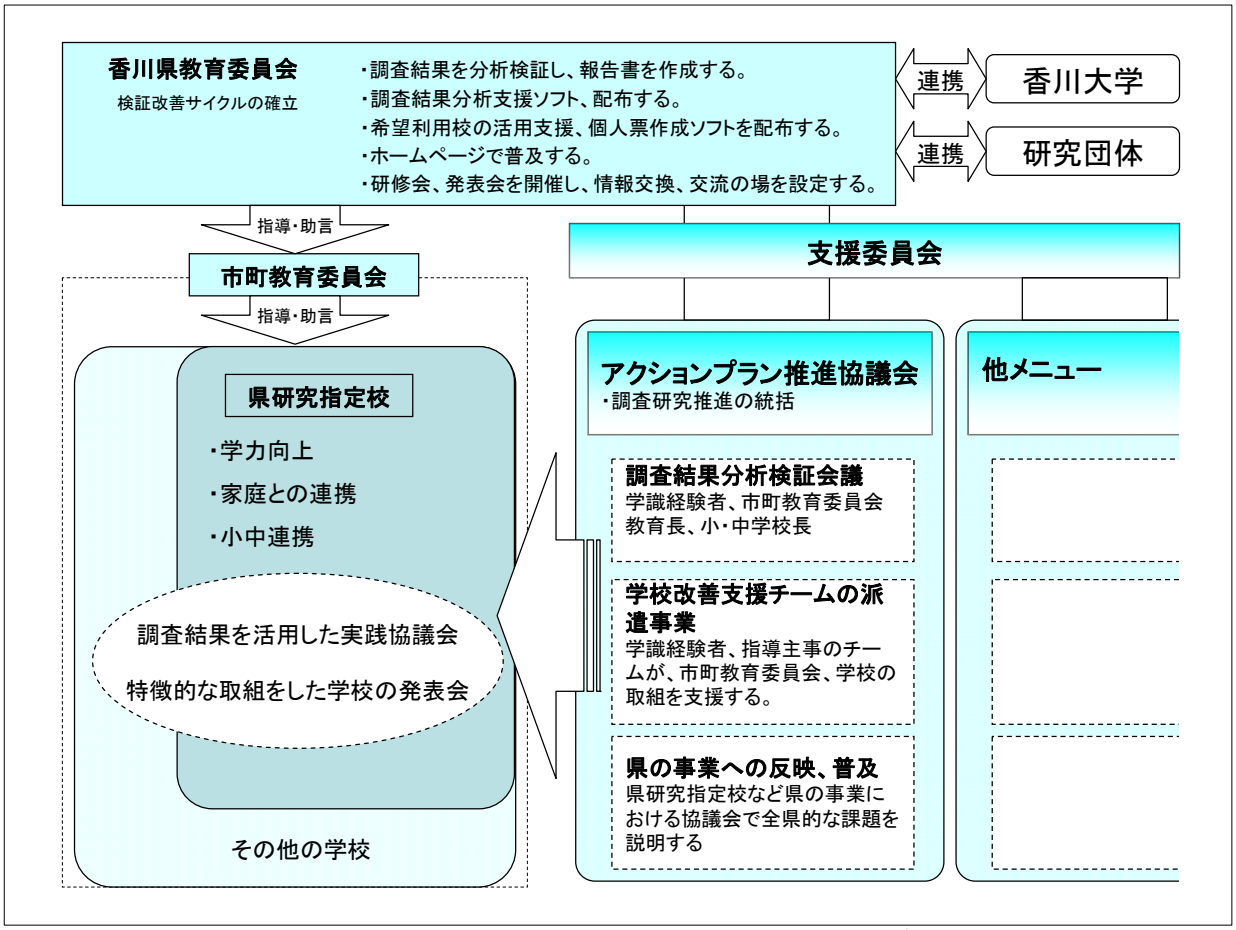
調査結果を踏まえ、市町教育委員会及び学校が主体的に実施する学力向上に向けた取組に対し、学校改善支援チームを派遣し、市町教育委員会や学校の実情に応じ、具体的な指導方法の検証改善及び教員の指導力の向上への取組を支援し、もって継続的な検証改善サイクルの確立に寄与する。

◆調査研究の普及

・研究成果の交流会（H23.1.5）

発表校が研究内容をまとめたポスターを提示し、参加者への説明や直接質疑を行う対話型の発表により、研究推進校等が研究内容や成果を広く普及し、今後の各小・中学校の指導の一層の充実を図ることを目的に研修会を開催したところ、発表校 33 校、参加者 1,200 名（県外を含む）の参加があった。全体会では、各校の取組への評価を行い、本県の課題と今後の方向性についてまとめた。

（２）実施体制



２．実践の重点事項について

（１）教員の指導力向上（資料１）

平成 22 年 7 月、全国学力・学習状況調査の結果が公表され、県教育委員会では、９月に報告書を作成した。今回の調査結果からは、本年度も全調査区分で全国よりも上位の傾向にあるが、全国との差は小さくなっている傾向が見られた。さらに、中学校の３調査区分では、正答数が低い生徒の割合が全国を上回る傾向も覗えた。

このような現状を踏まえ、教員向けリーフレット「子どもに確かな学力を！ 責任感と危機感を持って取り組む４つのアクション」を作成し、小・中学校の全教員に配布し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるようにした。

（H22.11.1　A4 版４ページ 13,000 部）

・教室掲示用ポスター「学びの三訓」（H23.3.25 B3 版 4,600 部）

学習の基盤となる学習規律確立の徹底を図るために、県内の小・中学校全ての教室に掲示できるよう作成した。

（２）学校改善支援チームの派遣

各学校においては、県の分析結果も参考にしながら、自校の結果を分析し、改善に向けた取組を推進していくことが望まれる。県教育委員会では、全国や県の学習状況調査の結果等を踏まえ、継続的な検証改善サイクルの確立に寄与することをねらいとして、香川大学教育学部の教員と県教育委員会の指導主事で構成する学校改善支援チームを派遣し、学校における指導方法の検証改善及び教員の指導力向上への取組を支援してきた。

この学校改善支援チームは、研究授業だけでなく、結果の分析や取組の計画立案の会議など、ＰＤＣＡサイクルの適当な時期に継続して派遣をし、それぞれの学校課題に応じた教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することができるよう支援した。

・学校改善支援チーム実践報告書（資料２）
（H23.3.25　A4 版 38 ページ 1,200 部）

改善支援チームを派遣した学校の取組の一部をまとめ、各市町教育委員会や各学校で参考にして、それぞれの学校課題に応じた教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することができるようにした。学校における年間の PDCA サイクルの例を示して、参考となるようにした。

（３）研究成果

・平成 22 年度までの調査結果から、県教育委員会で、学習規律の確立、学習意欲と学習に向かう態度の育成、学習方法の指導、補充的な学習を４つのアクションとして焦点化し、平成 23 年度施策の柱とすることで、調査結果を活用した PDCA サイクルの確立を図った。
・平成 22 年度までの調査結果から明らかになった課題について、それぞれに改善に向けた取組の事例を、学校改善支援チームの派遣事業及び研究推進モデル校事業での実践や研修会資料から蓄積することができた。
・研究成果の交流会は、発表校 33 校、1,200 人の参加（自主参加）となり、各実践の成果を広く普及することにつながった。
・学校改善支援チームを派遣した学校において、県全体で取り組む課題について、年間を通して改善に向けて取り組み、検証改善サイクルを実践し、その過程、成果を報告書にまとめた。希望利用の学校においても、全体的な傾向と自校の調査結果の分析から、検証改善サイクルを確立することができ、今後のモデルとなった。

２．普及啓発と今後の取組について

（１）成果の普及啓発に関する取組

・モデル校の取組、採点の判断基準、調査結果入力シート、分析支援ソフト、個人票作成ソフト、調査結果報告書、学校改善支援チーム実践事例、研究成果発表資料等の作成物はホームページに掲載した。
・全県的な研修会を開催し、調査結果の分析結果と課題を示したり、課題に対する学校の取組を発表したりすることで、普及を図った。
・成果発表会は、県内の全小・中学校に案内し、ポスターセッション形式で行い、具体的な実践を教員同士で直接交流できるようにした。

（２）来年度以降の取組

基本的に平成 22 年度の方向性を継続して取り組むが、平成 23 年度は新たに次の重点をおいて取り組むこととする。

・教員の指導力向上セミナー

平成 22 年度に配布した「責任感と危機感を持って取り組む４つのアクション」に関する課題を持つ教員を対象に、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため、これらのアクションを具体的に実践できるよう課題別にセミナー形式で研修を行うことによって、教員の資質向上に資する。

年 2 回　教職 10 年経験程度の教員対象

・学力向上モデル校事業

学力向上に向けて先導的に研究に取り組む学校を言語活動、学習習慣、小・中連携、学力定着のモデル校として指定し、各モデル校の研究を診断的、総括的に評価・検証し、その成果の普及を図ることで、学校の教育力を高め、児童生徒の確かな学力の向上に資する。

各学校における検証改善サイクルの確立を図るため、「研究成果の参考とする 10 の指標」を学校ごとに設定する。事業の研究推進に当たり、研究成果の参考とする指標を設定することで、①研究の視点を明確にして推進ができる、②研究実践の前後のデータを客観的に比較できる、③データから研究実践を考察するなど、数値結果をもとに研究成果を広く普及することをねらいとする。

また、公開授業の情報を全学校へメールで配信し、若手教員の積極的な参加を呼びかける。

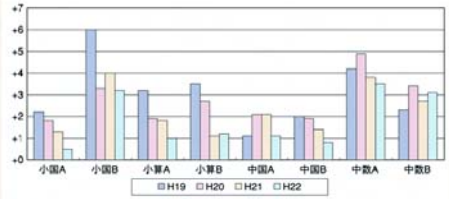
資料１　教員向けリーフレット

責任感と危機感を持って取り組む 4つのAction

子どもに確かな学力を！

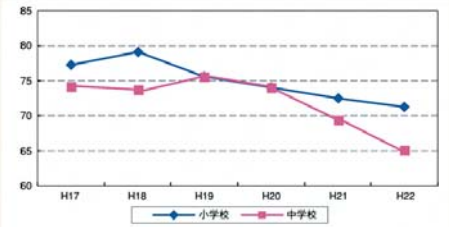
～平成22年度 全国学力・学習状況調査、県学習状況調査の分析から～

平成19年度～22年度全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の差の推移



平均正答率が、全国（公立）より上位の傾向にありますが、全国との差は小さくなっている傾向が見られます。

香川県学習状況調査における平均正答率の推移



小学校で4年連続、中学校で3年連続で平均正答率が低下しています。

子どもたちの学力が低下傾向です。
あなたの学校の子どもたちの状況はどうですか？

香川県教育委員会事務局義務教育課
http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/gimu/gimu

かがやくけん、かがわけん。
香川県

先生方へ　～子どもたちの成長のために～

子どもたちは、誰もが「分かりたい」「出来るようになりたい」という気持ちを持っています。そして、一人一人に個性があるように、つまずき方はそれぞれ異なっています。

こんな時、先生方の教えによって、つまずきの理由に気付いた子どもは、さらに次のステップに挑戦しようとします。「できた、分かった」という感動は、子どもたちの成長のエネルギーとなります。

一人一人の成長に寄り添うことは、本当に大変なことです。しかし、先生方の教えや想いは、子どもたちの人生における成長物語にしっかりと刻み込まれることは、間違いありません。

今、社会は大きく変化し、複雑化しています。これからの社会をたくましく生き抜くため、学校には、子どもたちに学ぶ力をきちんと身に付けさせる責任があります。今こそ、私たちが一丸となって、この４つのアクションを推進することが重要だと考えています。

子どもたちの成長の喜びや感動を先生方と子どもたちが、共に味わえることを願ってやみません。

香川県教育委員会
教育長　細松　英正

H22,10

Action 1 授業規律の確立を

全ての学校で守りたいルールを提案します!!

■教科書など、学習に必要なものの準備と、授業を受ける心の準備をさせ、授業を始めましょう。
■教師自身が、授業開始や終了時刻を守ることが大切です。

■姿勢よく授業を受ける習慣を低学年から、培いましょう。
■授業をしっかり受けようとする心の姿勢が大切です。

■先生や友だちの話をしっかり聞く習慣を身に付けさせましょう。
■教師自身が、子どもの話をしっかり聞くことが大切です。

さぬきっ子 学びの３訓

1 準備して
2 姿勢整え
3 しっかり聞こう

学校全体で…

- 重点目標を決めましょう
- 全教職員で目標を共有しましょう
- あらゆる機会に組織的に取組みましょう
- 具体的に評価し、次の目標を持たせましょう

- 学習する上で、最も大切なことは、授業規律の確立です。
- 学力の保証こそ、子どもにとって最も大切なことであり、保護者の願いです。
- 家庭や地域と連携し、基盤となる生活習慣の確立を図ることも重要です。

Action 2 学習意欲と学習に向かう態度の育成を

特に中学校では無解答率が全国を上回る設問の割合が急増!!

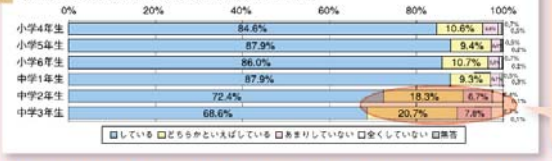
中学校の無解答率の県と全国との比較〈国報告書P.17〉

平成22年度	中学校				
調査区分	国語A	国語B	数学A	数学B	計
問題数（問）	35	10	36	14	95
無解答率が全国を上回る問題数（問）	28 (80.0%)	8 (80.0%)	23 (63.9%)	8 (57.1%)	67 (70.5%)
無解答率が10%以上の問題数（問）	0 (0%)	3 (30.0%)	9 (25.0%)	9 (64.3%)	21 (22.1%)

H19→21.0%
H20→48.4%
H21→69.6%

家庭学習が十分でない子どもが中学2年生から増加!!

意識調査 ●学校の宿題をしている〈県報告書P.51〉



子どもに自信を持たせて…

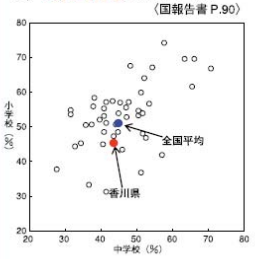
声かけや励ましを
点検・評価を
宿題の出し方の工夫を

- 粘り強く課題に取り組み、やり遂げたよさを味わえる機会を増やしましょう。
- 毎日の積み重ねを大切にし、やりがいのある宿題を工夫しましょう。

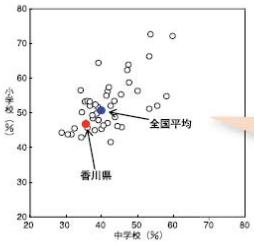
Action 3 学習方法の指導を

ノートのとり方やテストの間違いを見直す指導が必要!!
間違えたところを後で勉強する子どもが少ない!!

［学校質問紙］
■学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしていますか
〈国報告書P.90〉



［児童生徒質問紙］
■テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している
〈国報告書P.73〉

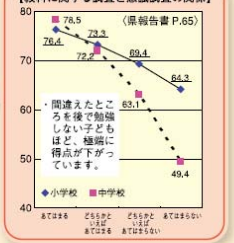


※肯定的な回答の割合を、縦軸に小学校、横軸に中学校をとり、各都道府県の回答状況を座標上に○で示したものです。●は全国平均の値で、香川県（●）は、いずれも全国平均を下回っています。

子どもに見通しを持たせて…

ノート指導の充実を
復習の習慣化を

【教科に関する調査と意識調査の関係】

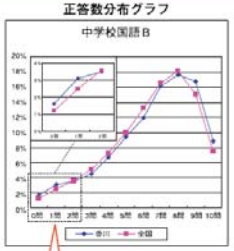


- 授業や家庭学習におけるノートの使い方、まとめ方を具体的に指導しましょう。
- テストなどで間違えた問題は、必ず見直すなど、復習の習慣化を図りましょう。

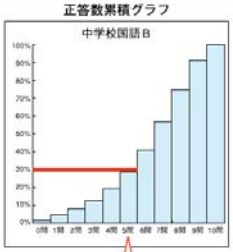
Action 4 補充的な学習を

全国や県と比較し、定着が不十分な子どもたちの把握を!!

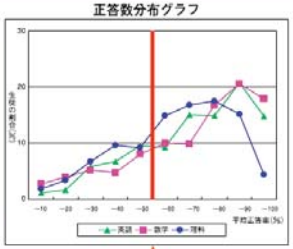
正答数分布グラフ



正答数累積グラフ



正答数分布グラフ



特に正答数が低い子どもへ
正答数が低い3割程度の子どもへ
正答率50%以下の子どもへ

必ず学び直しの機会を！

- 学年団や教科担当が協力して基礎的・基本的な内容の教材を準備しましょう。
- 課題やまとめをわかりやすく板書し、ノートにきちんと書くことを徹底しましょう。

資料２　学校改善支援チームの派遣報告書

学習状況調査等を活用したＰＤＣＡサイクル（平成 22 年度）

調査結果を十分活用して、教育活動の成果や課題等を把握・検証し、その改善を図り児童生徒一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上につなげるとともに、これらを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが重要である。

月		学　校	国・県教育委員会	月
4	**Do** 日々の教育実践	「学習状況調査（県）」「全国学力・学習状況調査（国）」の実施		4
5		【学力向上の取組】 ◇確かな学力 －主体的な学びを育てる学習指導の推進－ ・基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力の育成 ・主体的に学習に取り組む態度の育成	←調査問題公表(国) ←解説資料配付(国)	5
6		◇家庭や地域社会との連携		6
7	**Check** 定着状況の確認	「学習状況調査（県）」 「全国学力・学習状況調査（国）」結果の分析・検証		7
8		【分析】 ・平均正答率、平均正答数、正答数の分布の形状 ・設問分析（誤答、無解答の状況） ・学習意欲、学習習慣等の状況 ・学習意欲、学習習慣等の状況と学力との相関　等 ［分析支援ソフト］の活用	←結果提供(県) ・結果の概要 ・観点別平均正答率 ・経年比較　等 ○教育課程運営改善研修会 ○香川型指導体制研修会	8
9		【検証】 前年度の結果分析で明らかになった課題に対して、工夫改善した取組の成果と課題	←結果提供(国) ・全国との比較 ・県の傾向把握　等	9
10	**Action** 具体的な対策	分析・検証に基づいた指導の工夫改善 【改善に向けた取組】 ◇具体的な指導内容や指導方法の改善 ・習熟度別指導、少人数指導、補充的な学習や発展的な学習などの適切な実施 ・家庭学習の課題の適切な提供　等	←分析結果公表(県) ・つまずきの分析 ・意識調査と正答率の相関　等	10
11		◇家庭における学習習慣や生活習慣等の改善 ・保護者の理解と協力を踏まえた十分な連携　等		11
12		◇校内研修等の適切な実施 ・課題の見られた点を中心に指導内容や指導方法等の改善を図るための研修の実施　等	←分析結果公表(国)	12
1			○香川の教育づくり発表会	1
2	**Plan** 次年度計画	【次年度の具体策】 ・校内指導体制の整備 ・学習環境の整備 ・年間指導計画の見直し ・成果を捉える具体的な方法(評価)　等	香川型指導体制実施状況の確認と次年度の計画	2
3				3

学校及び教員の学力向上に向けたPDCAサイクルの例

	学　校	教　員
Plan 教育計画	・学校教育目標及び学校評価や学習状況調査等から明らかになった学校課題から**研究主題を設定**する。 ・学校として取り組む**授業改善、研修計画を作成**し、**研修体制を構築**する。	・各担当で**研究主題を具体化した子ども像を設定**する。 ・各担当で取り組む**授業改善や学力向上に向けた目標や計画**を立てる。
Do 日々の 教育実践	・研究主題や計画に基づいて、**授業研究**等を実施する。 ・計画的に**評価資料を収集**する。 ・**系統的な実践**となるよう、学年間の調整をする。 ・**学校全体の取組**となるように、**実践を共有**する。 ・**外部評価を受ける**ことのできる場を設定する。	・目標や計画に基づいて、**授業等の実践**をする。 ・研究主題に基づいた実践を積極的に取り入れ、授業参観等で**校内外へ発信する。** ・実践の記録を計画的に残す。 ・児童の学習状況に応じて、**適切な修正を加えながら実践**する。 ・**各実践を学校全体の場に情報提供**する。
Check 分析・検証 定着状況の確認	・全国学力・学習状況調査、県学習状況調査等の**学校全体の結果の分析・検証**をする。 ・調査区分、領域別、設問別等において、経年比較、国・県との比較、分布の状況、無解答率等の観点から**多様な分析・検証となる**ようにする。 ・**多面的な評価**（教員相互評価、児童生徒による授業評価、保護者によるアンケート等）を通して、**実践を見直す**。 ・調査結果から、研修計画や研修体制が**適切であったかどうか評価**する。	・調査結果を**学級別、個人別に分析・検証**を行う。 ・**結果から覗える傾向が正しいかどうか**状況を把握する。 ・適切な評価資料を基に**授業者が自己評価**を行う。 ・定着状況に応じて、**個別に指導**を行ったり、**補充的な学習**を行ったりする。 ・学習意欲、学習環境、家庭学習について点検する。
Action 具体的な対策 改善に向けた取組	・授業評価等の分析結果に基づき、学校全体として**学校課題の解決に向けた教育計画や研修体制等の改善策**を検討する。 ・**研修計画や改善策**を検討する。 ・分析・検証の結果、改善に向けた取組について**学校関係者に説明**する。 ・学校で協議した改善策について、学校全体で実践する。	・課題を改善した子どもの姿を想定する。 ・評価記録や授業記録などを基に、授業の成果や改善点を**検証結果に照らして検討**する。 ・各担当で**課題の解決に向けた実践**を行う。